

【研修施設・診療科・代表指導医】

【研修施設名】
〇〇大学附属病院〇〇科

【代表指導医氏名】
〇〇〇〇

【申請日】
〇〇年〇月〇日

## 【設備・機材】

* 設備・機材の記載方法				
保有の有無:				
「○」:診療科, 中央施設, 他診療科にあり, 使用可能な場合, 各項目の欄に記載.				
「X」:診療科, 中央施設, 他診療科にない場合, 各項目の欄に記載.				
「-」:診療科に保有する必要がある設備・機材の場合, 中央施設・他診療科の欄に記載.				
使用可能数:				
数値:使用可能な数を記載.				
「○」:必要十分な数がある場合に記載				

＜2023年における各研修施設における情報を下記に記載＞

	設備・機材	保有の有無		使用可能数
		診療科	中央施設 他診療科	
1	歯科用ユニット	○	-	6
2	歯科用エックス線検査機器	○	○	3
3	歯科用CBCT	X	○	1
4	レジン接着器材	○	-	○
5	CAD/CAM関連機材	X	○	1
6	歯科用実体顕微鏡	○	-	5
7	ニッケルチタン製ロータリーファイルシステム	○	-	3
8	歯科用レーザー機器	○	-	1
9	その他, 特筆すべき設備 名称:	X	X	-
10	その他, 特筆すべき機材 名称:	X	X	-

## 【研修に必要な図書】

＜2023年における各研修施設における情報を下記に記載＞

	図書名	出版社
1	第六版 保存修復学21	永末書店
2	保存修復学 第7版	医歯薬出版
3	エンドドンティクス第6版	永末書店
4	歯内治療学第5版	医歯薬出版
5	保存修復学専門用語集第3版	医歯薬出版
6	歯内療法学専門用語集第2版	医歯薬出版
7	Endodontics PRINCIPLES AND PRACTICE	ELSEVIER
8	Microsurgery in Endodontics	WILEY Blackwell
9	PATHWAYS of the PULP	ELSEVIER
10	マイクロエンドははじめよう 超!入門テキスト	医歯薬出版

## 【症例数と申請希望者受入可能数】

### 【症例数の考え方】

＜臨床実績（５年間で必要とされる症例数）＞

- ・ ５年間で300症例（400単位）以上、修復症例と歯内症例は原則同数
- ・ １年間で60症例、１ヶ月で5症例以上

\* 更新者がある場合、更新者は５年間で300症例以上を必要とする。

- \* 以上より、１つの研修施設で、１名の申請希望者がいる場合、
  - ・ ５年間で600症例以上、１年間で120症例以上、１ヶ月で5症例以上が必要。

### 【例示】

（例１：１年間に120症例以上に対応する研修施設）

- ・ １年間の症例が120症例（１ヶ月で10症例）を超える。
  - ・ 更新者は1名のみ。→更新者は年間60症例の臨床実績が必要。
  - ・ この場合、１名の申請希望者が研修可能。
- 申請希望者は年間60症例の臨床実績が可能。

（例２：１年間に240症例以上に対応する研修施設）

- ・ １年間の症例が240症例（１ヶ月で20症例）を超える。
  - ・ 更新者は２名。→更新者２名各自は年間60症例の臨床実績が必要（合計120症例）。
  - ・ この場合、２名の申請希望者が研修可能。
- 申請希望者はそれぞれ年間60症例の臨床実績が必要（合計120症例）。

＜2022年における各研修施設に関する情報を下記に記載＞

\* 症例数：歯科保存専門医の専門性にかかる症例の数

研修施設名	代表 指導医	専門医 更新者数 （予定）	施設 年間症例数 （新患）	申請希望者 受入可能数
〇〇大学附属病院〇〇科	〇〇〇〇	1	672	10

### 【必要な場合は説明を記載】

代表指導医を除いて、現在、日本歯科保存学会・専門医資格を有する歯科医師が1名所属している。そのため、更新予定者1名が年間に必要な臨床実績数（60症例）を除いた年間新患数（2022年）から申請希望者受入可能数を算出。